

第8回 新宮市文化複合施設基本設計等検討委員会 会議概要

日 時：平成27年12月22日（火） 午後1時30分～午後3時30分

場 所：市民会館大会議室

【出席委員】

堀内委員、関委員、川口委員、船上委員、山本委員、高委員、榎本委員、丹羽委員、勢古委員、向井委員、上路委員、片山委員（順不同）

【事務局】

文化振興課：畑尻課長、須崎課長補佐、前地係長、南係長、篠原主事、小林主事

図書館：道前係長

<会議次第1. 前回委員会の内容確認>

設計者より、資料1に基づき前回会議の打合せ内容を確認

【委員長】

前回の会議で大ホールの客席数は立見席込で1120席となったが、消防法等の法律を鑑みたうえで可能な席数でよいか。

【設計者】

問題ない。

<会議次第2. 平面計画修正案の説明>

設計者より、資料2に基づき平面計画修正案の説明

【委員長】

ホール棟の面積が増えているが要因は何か。

【設計者】

機械室が増えていることが大きな要因の一つである。

【委員】

熊野学棟に関しての変更点はないか。

【設計者】

搬入用の庇を設置した。

<会議次第3. 市民ワークショップについて>

設計者より、資料4に基づき第6回ワークショップの報告

【委員長】

毎回のワークショップの参加人数はどのぐらいか。

【設計者】

平均で30～40人程度の参加者がいた。

【委員】

今後も継続して市民参加ができるような場はあるのか。

【事務局】

管理運営計画の検討においてもワークショップを行い、市民参加できる場を設ける予定である。

<会議次第4. 提言書（案）について>

【委員】

立見席に椅子を並べることは可能か。

【設計者】

定員以下にはなるが、可能である。立見スペースに関しては、0.2㎡/人で算定している。

【委員】

「当施設の多様なサポーターが利用できるボランティア室」について、基本計画では様々なボランティアが情報発信できる場をつくるということが本来の主旨となっていたが、そのように捉えられないか。

【委員長】

ボランティア室は施設に係るサポーターのための部屋とする。

【委員】

「委員会としては厨房を備えたカフェが望ましいと考えますが、」は委員会で決まったように思われるので削除した方が良いのではないか。

【委員長】

「厨房を備えたカフェが望ましいと考えますが」は削除する。

【委員】

先日地元町内会への説明会が開催されたが、今後も開催する予定があるのか。

【事務局】

先日の説明会では車両動線への懸念や西村伊作の門に関する検討事項が挙げられた。これらに関しては引き続き検討を行うが、それ以外にも解体工事に伴うことなどご理解頂く

ことがあるので丁寧な対応を行っていきたいと考えている。

(各委員より自由意見)

【委員】

今後高齢化が進んでいくなかでこの施設をどのように有効に使っていくかが課題である。

【委員】

複合化のメリットを検討していく必要がある。

【委員】

この施設をどう生かしていくかは市民にかかっていると思うので、今後に期待して行きたい。

【委員】

市民が夢にしていた施設がいよいよスタートするという実感が湧いてきた。まだまだ難題はあるがこれからも頑張っ欲しいと思う。

【委員】

これから基本設計から実施設計へと移行していくが、今後も事務局と協力して頑張っ行って行きたい。

【委員】

ここで出た意見をまちづくりにどうやって生かしていくにかかっていると思うが、これからもご協力願いたい。

【委員】

熊野学センターが当初よりも寂しい印象を受けるが、熊野学センターから発信していけるような施設づくりを行って行きたい。

【委員】

熊野学センターは世界で唯一のものであり、ソフト面も含めてしっかりと議論し、いいものにしたい。

【委員】

短い期間ではあったが、いい形にまとまってよかった。ワークショップも様々な分野の方々がそれぞれ意見を出し合い良い方向に向かっていると思う。ワークショップに参加してみて熊野学の関係者が少ない印象を受けたので、熊野学の応援団を増やしていく必要があると感じた。

【委員長】

今回の検討委員会のような市民参加方式が定着していくことを望む。新しい文化複合施設は新宮市の発展に寄与する施設となる。行政と市民が協力して是非いい施設にして欲しい。

以上